



ひなどり

園だより 9月号
平成30年9月3日
新潟市立新津第三幼稚園



「みんなちがって、みんないい幼稚園」でありたい

園長 間嶋 哲

平成最後となる、長い夏休みが終わりました。みなさん、いかがお過ごしだったでしょうか。2学期は運動会や作品展があります。子どもたちの個性や頑張る姿を、最大限に引き出せるよう、職員全員で教育に当たります。

先日、新潟市立幼稚園の研修会があり、すべての担任が参加しました。新潟大学の長澤正樹先生から『特別な支援を要する幼児へのかかわり』という講演をしていただきました。様々な障害に関する専門的な話とは別に、私の心に残った内容は次のことでした。

- ・男の子は、元々落ち着きがないものだ。走り回ったり暴れたりする体験も、時には必要。
- ・(特に女の子) 完璧を続けることは害になる。時には、失敗することも必要。

私自身も恥ずかしながら、就学前や小学校低学年の頃は、明らかに「落ち着きのない子」でした。今でも大切に保管してある小学校の通知表には、しっかりと明記されています。落ち着きがないというのは、様々なことに興味関心があるからこそなのです。

一方、いわゆる「失敗体験」の必要性は、おそらく誰もが頷くところではないでしょうか。最近では就職活動でも、「失敗体験」を聞かれるようです。失敗をすることが悪いのではなく、様々な失敗を繰り返しながら、人間は何か大切なことを学んでいくのです。

下に掲げた、金子みすずさんの詩を知っていますか。大正時代後期から昭和の前期に活躍し

私と小鳥と鈴と
金子みすず

私が両手をひろげても
お空はちども飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面を速くは走れない
私がかからだをゆすつても
きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ
鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい

た童謡詩人です。一人一人の顔が違いうように、個性の大切さが強調されています。

落ち着きを常に求めたり、子どもが失敗しないよう先回りしたりすることは、結果的には、その子らしさや、自立の芽を摘んでいる行為なのかもしれません。

